



令和7年（2025年）

斐伊小学校は **開校150周年** を迎えます

斐伊小学校は、明治8年（1875年）に開校しました。学校だより「ひいの子」では、開校150周年にちなんだ記事を紹介していきます。

先月は、斐伊小学校の沿革の概要をまとめてみました。出典は、小学校の沿革誌と昭和51年3月発刊の記念誌「斐伊小学校百年の歩み」です。この「斐伊小学校百年の歩み」は、斐伊小学校の歴史を紐解いていく上で大変貴重な資料です。斐伊小学校が地域の皆様に支えられ、愛されてきたことが本当によく分かりますので紹介していきます。

この「斐伊小学校百年の歩み」を編集された50年前は、開校100周年記念事業として、記念誌の作成や屋内運動場（現在の体育館）の竣工にあわせた式典等が催されました。「開校150周年」にあたる令和7年は、昨今の事情から大きなイベント的な行事は行いませんが、子ども達には「斐伊小学校ができて150年目の時に、私たちはその小学校にいたんだ」と感じられるような思い出を作っていきたいと思えます。

150周年に寄せて

1月24日～30日は、「全国学校給食週間」でした。お昼の放送では次のように学校給食のはじまりについて紹介がありました。その中に斐伊小学校の給食のことが書かれていました。この放送内容は中央給食センターが作成していますので、木次、三刀屋、吉田、掛合の小中学校に配布されています。

雲南市では、今週一週間を「学校給食週間」とし、学校給食に関心をもってもらえるよう、いろいろな工夫を凝らした献立にしました。

今日は、給食の歴史について知ってもらうために、給食のはじまり献立にしました。

給食は、今から約130年前に、今の山形県の学校で、お弁当を持ってこられない子どものためにお昼ご飯を出したのが始まりです。

雲南市では、今から約90年前に斐伊小学校で、全国に先駆けてごはん、みそ汁、おかずがそろった完全給食が始まりました。当時の斐伊地区でも家が貧しくてお弁当を持ってこられない子どもや、お弁当を持ってきてもその中身が少なかったり、おかずが十分に入っていないくて、手で隠して食べる子がたくさんいたそうです。当時の校長先生をはじめ多くの方が「未来を担う、子どもたちのために」という強い想いで給食が実現したのです。当時は、お米や野菜、燃料の薪は、家からの持ち寄り、調味料のみそや醤油は、学校で作っていたそうです。

今は、食べ物が豊かにある時代ですが、「子どもたちのために」という想いは変わらず給食を作っています。

「斐伊小学校百年の歩み」によると、昭和3年にみそ汁給食が始まり、昭和7年には十坪の炊事室を新築して、全国に先駆けて全校児童の完全給食が実施されることとなったそうです。

この放送原稿によって、斐伊小学校が地域の皆様に支えられ、愛されてきたことを広く雲南市の子どもたちにも伝える良い機会を作っていただけたなあと思ったところです。

思い出のギャラリー

明治 8年 (1月) 公立山方小学校開設 (通学区山方)

(7月) 公立斐伊小学校開設 (通学区里方)

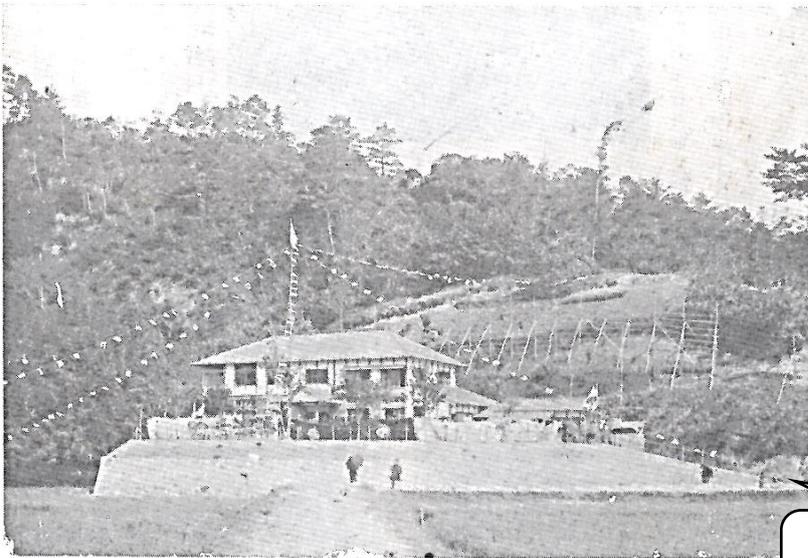
明治 17年 山方村、里方村、木次村を併せて大原郡第三番学区とし木次小学校山方分校を置く
(通学区山方、里方)

明治 20年 学制改革により斐伊簡易小学校と改称

明治 22年 斐伊村、木次町合併のため木次第二簡易小学校と改称

明治 24年 自治区分離して斐伊村を置き斐伊簡易小学校と改称

明治 25年 学制改革により斐伊村尋常小学校と改称 (赤羽根に新築)



元赤羽根にあった校舎

元赤羽根にあった校舎

大正 8年 高等科を併置し斐伊村尋常高等小学校と改称 (現在地に移転)



斐伊村外5ヶ町村組合高等小学校校舎

斐伊村外5ヶ町村組合高等学校校舎

